

# 平成 27 年度フリースタイル部秋季技術運営委員会 議事録

日付：2014 年 11 月 09 日（日）

時刻：11:01～16:46

場所：味の素ナショナルトレーニングセンターアスリートヴィレッジ ミーティング室 4

出席者（敬称略）：高野 弥寸志、荒瀬 裕基、斗澤 由香子、長島 康敬、田中 千香子、塩津 龍一、横山 敏弘、  
永井 祐二、尾形 修、山口 茂樹、池原 明

欠席者（敬称略）：中野 銀次郎、長壁 宏

議事録（敬称略）：長島 康敬

## 1. 開会

荒瀬技術運営委員長の開会挨拶

## 2. 書記選出議事録署名人選出

議事録書記担当は長島氏、議事録署名人は斗澤氏を推薦。

全員承認

## 3. 自己紹介

※各加盟団体での活動内容なども簡単に紹介

## 4. 部長挨拶

高野氏：

平昌五輪での金メダル獲得を目標としFS部長を拝命しました。

今会議で現状を討議頂いて課題を実行に移す組織にしていきたい。

## 5. 報告事項

議長は競技本部規程に則って技術運営委員長の荒瀬氏が担当。また同規程に基づき、構成委員総数の過半数以上の出席があるため、本委員会は成立している旨の報告。

### 1. 新体制組織・業務分掌確認

新体制組織(図)については、10/3 理事会で承認されている。任務について各自確認。

フリースタイル部組織詳細部分を確認。

本来、一同に会して会議を設けたいところであるが、予算の関係もあり、各小委員会では Skype など各メディアツールを使って審議・打合せするなど工夫して頂きたい。

9 ページの組織名簿に一部不適切な名称があったので訂正する。

島谷氏～長井氏まで「MO コーチ」とあったが、正式には「委員」である。「委員」へ訂正。

常安氏→「SX セクレタリー」でなく「委員」へ訂正。

水野氏→「富山県」でなく「岐阜県」へ訂正。

河野氏→「東京都」でなく「長野県」へ訂正。

尾形氏より自己紹介と関連事項報告。

スノーボード部では副部長、強化委員長。

2017 年冬季アジア大会のHP 会場造成も札幌市ばんけいスキー場で完了している。

2015-2016 年にはスノーボード WC の HP も開催予定。

スキーHPも参加国が4カ国あればアジア大会で開催実施できるので是非実現して欲しい。  
来年の6月に予算が決まる予定なので一定の予算を確保したい。

予算を確保できればスキーSS/HPは選手負担程度で運営できる。

ばんけいスキー場HPのスペックは、コース全長180m（使用部は150m）、深さは6m。

「小委員会などのミーティングにSNSの利用はある程度許可してもらえるのか？」の質問に対し、  
「(上記予算の件もあり)問題ない(部長・委員長)」との回答。  
「連絡の取れるメンバーの名簿を作った方がよいのでは」の質問に対しては、  
「事務局で既に所有しているので、FS部を抽出してセクレタリーが11月中に作る。推薦メンバーにも報告する(委員長)」との回答。

## 2. 強化関連

斗澤氏より口頭報告(部長、強化委員長と検討した結果を報告)。

カナダ事例: own the podium 政策の結果でメダル獲得効果、エリートアスリートとしての社会的貢献が一般的な慣習となっている。

カナダをはじめとするフリースタイル強豪国は、国を挙げての強化策を進めている。

日本では強化委員会と技術運営委員会の力を借りながら、チームジャパンとして進めていく。

選手は「真のエリートアスリートとして、フリースタイルスキー競技活動を通して、人々と社会に貢献する」の理念のもと、強い選手になる、応援され愛される選手になる、真のエリートアスリートになること、信頼されるアスリートになること、互いがリスペクトして助け合うこと、そして社会的貢献することなどを伝えていく。

平昌ではFS5種目でメダル3個の獲得と入賞数6を目指している。

組織力を高める、組織の連携をして実施(スタッフ強化、選手強化、ブロック強化、組織強化による)見える化を進める。

地域(ブロック)との協力関係を深めていく。

4ヶ月経過した進捗としては、ヒアリングを進めており今回の第2回MOジュニア国内合宿で全メンバーのヒアリングが終わる予定。

直接現場へ足を運んで調査を進めていく。

「フリースタイル部の選手育成及び強化方針についてまとめ、作成したパワーポイントはメンバーで見ること出来るか？」の質問に対し、「修正して後日配布」する、との回答。

また「ナショナルチームを統括するのがヘッドコーチの職責であるが、今の話では強化委員の部分など範囲を超えているやっっているようだが、その方向で今後進めていくのか？」の質問に対しては高野部長と斗澤ヘッドコーチより、「その方向で進めていく」旨の回答。

ナショナルチーム=SAJが事業ごとに編成するチームを言う。

「見える化の方法とは？好意を持ってもらえる所作とは？」の質問に対しては、

「見える化の方法は、コーチの頭の中に入っている根幹の部分ロードマップにして示していく。

毎年8月には、選考基準やその他ロードマップを出せるようにする。ホームページのお知らせへ掲載など、情報をオープンにしていく予定。

舩について選手として約束をする。考える能力、気付く能力を上げていけるようにする。」との斗澤ヘッドコーチの回答。

部長からは「ヘッドコーチの描いているものを委員メンバーに見える化して欲しい。」との要望。

### 3. FIS 関連

田中氏より口頭による報告。

FIS フリースタイル委員会報告書を参照。

AE の予選ラウンドについて説明、報告。

MO の 6-2-2 (ターン 60%エア 20%スピード 20%) への比率変更にともない、ジャッジングのポイントについて国内ジャッジクリニックで報告。

AE の対戦形式のショートフォーマットについて説明、報告。

決勝進出者数について、4名から6名にする旨の報告。

テクニカルアドバイザーとビデオコントローラーのビデオ再生について検討されている事を報告。

→一度スコアを書き、通常スピードで再生して確認し、確定する。不明な場合はヘッドジャッジがスローモーションで再度確認して確定する。

SX のヘルメットは FIS の定める安全規格を満たしたものを使う。

SX のゲート不通過の場合について、スイッチバックでの通過は失格。

HP のビッグエアの決勝システムはスノーボードが運用している形式を採用する。

FIS/TD 資格推薦について

常安氏

→今回 FIS・C の TD 資格申請は資格規定変更等理由により認められなかった。申請に至る経緯が不明。

TD アップデートについて

コースビルダーについて→資料 URL 参照

各資料は URL を参照

ウィングヒルズ白鳥リゾートより申請を FIS の公認コースとして承認。(スタート地点等の雪盛りなどして平均斜度を高めるなどの条件付き)

Infront 社の情報についての利用や拡散促進のため、連盟のホームページでリンクを張って欲しい。

主要大会の予定について

ユースオリンピックについて説明、報告。

MO の DD について説明、報告。

アドバイザーグループについて紹介

→JPN は MO グループで城コーチ、AE・Judge グループで田中氏がメンバーとなっている。

カレンダーについて報告→1月にオーストリア・クライシュバークで世界選手権が開催される。

DM 種目改正について現状報告→春のミーティングで変更点について改正案が出てくる。

「13 ページの常安氏のアップグレードについての経緯を知りたい。」の質問に対して、「今は分からないので後日報告する」旨、田中氏が回答。

「(FIS による TD 資格者ランクの見直しは)国内の FIS レースに貼り付けられる TD がいなくなるので、危機感を感じている。」の委員からのコメントに対して、「(該当する資格者が少ないから特別な措置を認めてくれという発想ではなく)

中長期的な展望として、資格のアップグレードにも努めて欲しい。」と委員長よりコメント。

「ジャッジのアシストプログラムは受けなければいけないのか？」の質問に対して

「私で良ければアシストプログラムを実施する。」と田中氏より回答。

#### 4. 運営関連

##### A) 大会運営小委員大会

塩津氏よりジャッジ・TDのアサインに関するアンケートは現在集計中の旨の報告。  
また新大会運営マニュアル作成進捗状況についてはMOから順次行いたい、との報告があった。

「来期のTD配置に関する作業は夏ぐらいから進めてほしい。」と委員長より要望。

田中氏より「9ページの件についてのアサインのワークフローはどうなっているか？」の質問に対しては、委員長より

「フリースタイル部に関しては、TDはTDワーキンググループでとりまとめ、審判のとりまとめは審判計算小委員会でとりまとめる。その後、双方を大会運営小委員会で照合させて技術運営委員会へ上程し任命する方法を検討しているが、その手法で良いか？」

全員承認。

##### B) 審判計算小委員会

横山氏より各ジャッジクリニックについて報告。

WJでのAE検定会：1名受験、合格。窪田氏。

A級審判員研修会（兼FISジャッジクリニック：海外3名参加。

審判員研修会（兼SAT）：23名。プロクターも参加。

「ジャッジのアサイン状況の公開についてどうなっているか？戦略のために知りたい選手がいる」との斗澤ヘッドコーチからの質問や要望について、

「どうするか審判計算小委員会で審議していく」と横山審判計算小委員長より回答。

##### C) ルール・公認・施設小委員会

ルール・公認・施設小委員長の永井氏より大会公認カレンダーについて報告。

2/6～2/8 田沢湖B級削除A級のみ確認。

1/31～2/1 愛知県FIS/A大会2戦。

2/27～2/28 新規FIS公認SS 白馬。

3/13～3/15 埼玉県主催、SS新潟県神立高原。

公認未確認

3/7～3/8 FIS大会SS 尾瀬戸倉

3/21～3/22 FIS大会SS 野沢温泉

委員長より「上記2つはFIS競技としては見送りたいが、開催はしてもらいたい。」との回答。

「国体についてはどうなっているのか確認が取れていない。」との塩津氏からのコメントに対し

「国体はSAJのカレンダーの中では扱わない。」と尾形氏より説明。

委員長より「SS/HPなどは普及発展のためには認めたいが、SAJのカレンダーでは認められない。正式に各県連から大会開催申請書を上げてもらってからにしたい。今期は県公認でやってもらいたい。」との意見。

##### D) TDワーキンググループ

グループ長の山口氏より報告。

11/8 秋季TD講習会・検定会開催→参加者14名 受験者2名。

2015 シーズン各大会 TD アサイン進捗状況：11 月 20 日をめどに調査票を回収。  
ICR の翻訳は現在滞っている中で今年のを追加してシーズン前（年内）に提出したい

## E) クロスキャット

クロスキャット：ポイントリスト No1 は来週に発行予定。毎回月末締め早い時期に公開。  
クロスキャット：1/31、2/1 の愛知の大会は月を跨いでいるのでどうするか？  
委員長「1 月締めに反映させる。」

## 6. 審議事項

### 1. リザルト計算システムの更新

ルール改訂（エア難度点・スピードポイント計算改訂）による修正をしなければならない。これまでの長島氏の厚意による対応は、今季は難しい。FS 部として対策を立てたい。

#### 審議結果

- スノーボードの事例を参考に各開催 OC から 2015-2016 シーズンを目途に利用料をいただき、開発費として当てることにする。審判計算小委員会は見積額などを提示し、来春に技術運営委員会へ上程して詳細を確定する。
- 統一したシステムを使っていきたいので、今後も長島氏のシステムを使っていくことにする。
- これまでの開発費及び今季の改修費用については間に合わないので、来シーズンから FS 部として支払うことにする。
- 公認大会としては今後システムを統一し、利用料として徴収する方向で進める。
- HP・SS については、スノーボードのシステムを借りる。

### 2. 記録計算係員の確認について

各大会における記録計算係員（PC によるリザルト計算処理担当者）の確認が必要である。

①リザルト処理の担当者を確認していただきたい。

昨シーズンは秋季計算委員会（技術運営委員会の前日開催）において競技会ごとの計算担当者予定を把握確認していたが、今季は未定・不明（主たる担当者も不在の可能性あり）。

各競技会で選任される記録計算係長の確認をしておきたい。

②審判：主審の情報連携をとる。主審該当者（または A 級審判員ネットワークなどを構築する：SNS など）

#### 審議結果

- 審判計算小委員会としては、OC に対して記録計算係の担当が決まっているかを確認するにとどめる。
- OC に対する記録計算係やその他役員の張り付けは、TD ワーキンググループが確認を取る。
- 大会運営の評価項目も TD ワーキンググループがまとめ、来シーズンから実施する。
- 評価が低い県連は、公認大会開催できないような方向で検討をする。

### 3. TD 資格公認について

※別紙資料 [A] 参照

松川氏（長野県）の TD 資格公認について技術運営委員会の中で承認し、早急に直近の理事会へ上程する。

### 審議結果

- 承認する。
- 直近の理事会に上程するべく申請手続きを進める。

## 4. 全日本スキー選手権、全日本ジュニア選手権、田沢湖 A 級大会の有資格者アサインについて

### 審議結果

- 2014 年 11 月末日までに決定する。
- 手順は TD を WG より、審判を審判計算小委員会よりそれぞれ大会運営小委員会へ推薦をした上で調整する。
- 最終的に部長、技術運営委員長、副委員長 3 名の計 5 名で協議し、決定、任命する方向ですすめる。

## 5. 2017 年以降の全日本スキー選手権、ジュニア選手権開催地について

年度	MO&DM	AE	SX	W J	J r
2015 年	北海道	北海道	長野	長野	新潟
2016 年	福島	北海道	長野?	長野	福島
2017 年	富山	北海道	北海道・長野	長野	北海道
2018 年					愛知

※HP は北海道・札幌にて、2017 年アジア大会、2015 年年種目化第 1 戦を予定。

全日本スキー選手権大会種目化も検討か？

2016 年のプレ大会はスノーボードハーフパイプワールドカップとなる。

### 審議結果

- 2016 年の SX は長野か北海道かは 2015 年春までに決める。
- 2017 年以降の各全日本開催地については再度、春以降に決定する。
- 2016 年 SX は春までに決める

スノーボード HP・SS は 3/20 以降に北海道で全日本選手権などをやっているのので、スキーもそこに入れ込んで頂ければスノーボード部としては協力していきたい（尾形氏）。

## 6. 2014 年秋季以降の会議、検定、講習会について

### 審議結果

- TD 講習会、検定会 SX : AE : MO :  
11/末日までにアサインを決めて 12 月末までに実地検定の日程を決める
- 審判員講習会、検定会 AE : 3/15 MO : 3/22  
MO はジュニアオリンピックで MO 検定実施（新潟県松之山）、AE は美深で検定開催
- 全種目コーチ会議：来春開催予定、併せて全種目選手合宿も開催することを検討中。  
本件に対する検討についての概要発表は年内に行う。
- 審判計算小委員会：来春開催予定（来春の技術運営委員会の前日とする）。
- 大会運営小委員会・TD ワーキンググループ：技術運営委員会の前日に実施を検討する
- 技術運営委員会：2015 年 6 月 21 日日曜日開催予定（FIS の委員会の後）。

## 7. スノーボード競技各種目との共催について

コース形状が同じであり且つ HP・SS の全日本選手権がないため、初回は公開競技として始めて将来的に共催できないか。

### 審議結果

- 尾形氏、永井氏で新種目について推進する。

HP・SS の全日本選手権を実施するために、どのような方向で進めていくか、ルール・公認・施設小委員会で具体的な検討が出来ないか。特にコース（レギュレーション）、ジャッジや TD のアサイン方法などボードとスキーが共存し、各項目の整合性が取れるかどうかの検証などを含めて話し合う。

## 8. 大会の整理と JAPAN シリーズの開催について ※別紙資料 [B] 参照

日程的に重なった大会が散見され、また参加人数の減少を鑑みて大会の整理を実施すべき。それにあわせて世界で闘うトップ選手の為の大会をシリーズ化して実施することを提案する。これについては添付ファイル参照。

### 審議結果

- カテゴリー別の整理、ブロック別の整理、日程の整理をする必要があるため、大会の整理と同時並行で進めて、FIS/A 級を分けた上で FIS レースをすべて強化側の言う JAPAN シリーズのような大会にしていくべく、海外の大会とかぶらない日程で設定する。
- 強化側の意見を考慮し大会運営小委員会で討議しながら来春の委員会までに決定する。
- 中野氏と塩津氏で 12 月サマリー報告、3 月末までにまとめて、6 月に承認できるよう進める。

## 9. 計算小委員会ブロック推薦について

計算小委員会にはブロック推薦によりノウハウを持った人材が推薦されず、記録計算未経験者が集まった。春期ミーティングでは、キーパーソンになる人材は引き続き委員に入れて欲しいと要望したはずだが、入ってない。キーパーソンを来期からでもメンバーに加えることは出来ないか？

### 審議結果

今後は具体的な要望を上程して頂ければ考慮・検討する。

## 10. 記録計算係のポジションと養成について

記録計算係は特定の人に偏りすぎており、負担が大きい。

選手を順位付ける重要な任務を負っている。ジャッジと同じように記録計算という公認資格を持たせることを提案したい。

### 審議結果

SAJ 側では規約を整備してくれば公認資格化は OK と部長がコメントしており、ルール公認委員会において、公認・施設小委員会の公認資格化の諸条件確認・調査、そして十分な審議検討を経た上で、「8」と同様に進め、正式な審判計算小委員会からの上程という流れをとる。

## 11. 各開催県連に対する記録計算係に関する制約について

各開催県連は公認資格を持った記録計算を抱える、もしくはアサインできていないと大会を開催できないようにするのはどうか？

### 審議結果

記録計算係の公認資格化の諸条件をルール公認委員会で調査して、「10」と関連して進める。

### 12. 記録計算係の養成と講習会開催について

昨今の一部競技会では大会直前まで記録計算係のアサインがされない事から、不慣れな係員による記録計算ミスが発生している。また特定の人に依頼が集中している。負荷分散と精度向上のため係員の養成と講習会開催を要望する。主催はSAJでも各県連でもいいが記録計算講習会の開催と講師派遣をして記録計算係の業務フローとシステムの使い方やリスクマネジメントを講習する。※ [2]、[9]～[11]と関連。

### 審議結果

「10」と関連して同時並行で進める。

※フリースタイルスキーふくしま(リステル)大会では審判計算小委員会主催の講習会を計画している。

### 13. FS部マーケティング・普及・広報委員会の創設について

フリースタイル部として、独自のマーケティング活動ができないか？強化費減少に関連して、受け身な状態ではなくお金を集めてくる攻めの体制を作るべきではないか？そういう意味からマーケティング・普及・広報委員会の創設を提案する。

### 審議結果

組織を作り、そして運営方法を検討していかなければならないので、今後の検討課題とする。

### 14. 助成金について

totoのタレント発掘助成は複数の部から申請が上がったにもかかわらず、SAJからはアルペンのみを提出して他はJSCに提出されていない。スキー連盟として種目を問わず1つの事業にまとめれば申請は通るのではないか。

### 審議結果

今後はフリースタイルとして、もしくはスキー連盟として1つの事業にまとめていけるように検討していく

### 15. 育成用ビデオ作成について

JISSの情報処理・映像技術ユニットでは、競技団体のサポート申請を受けて、ビデオ制作も請け負っている。シンクロやその他競技団体では、選手育成やフィジカルトレーニング、コーチ育成ビデオなどの制作を申請している。フリースタイルでもこのようなビデオ制作依頼をしてみてもどうか？統一されたコーチングメソッドや審判育成など。

### 審議結果

情報量で成果に差が出るので、積極的に活用して進めていくこととする。

### 16. 審判員雪上研修会 兼 強化合宿との連携を行いたい

強化委員会との連携により審判員雪上研修会を選手強化合宿等と合同で行う事はどうか？

## 審議結果

日本のプロクター（仮称）と強化合宿との連携の方がより強化にとっては有効ではないか。賛否によって、詳細案を審判計算小委員会から上げて欲しい。

※11/10に第1回選手・コーチ向け審判講習会を行う予定

## 17. 全日本ジュニア選手権出場年齢等の変更に関する提案について

- ①「JOC ジュニアオリンピックカップ全日本ジュニアスキー選手権」の年齢カテゴリーが中学生男女と高校生男女となっている、参加年齢をアンダー14、FIS 登録以前の年齢男女に改める。参加年齢は10歳～13歳、フリースタイルスキーの場合、学校のクラブ活動等で行われている事がほとんどないので、学年区分とする必要が無いと思われる。

### 理由

今のジュニア選手権は選手レベルの差が大きく同じコースで滑走するというアンバランスな状態。レベルにあったコース設定が必要ではないか。

大会のクラスとしては以前のB級公認としてコースの設定もB級のコース設定とする。

コース長、170m～190m 平均斜度 18度～24度 1エア、2エアの形状は現在の規格に則る。

## 審議結果

- 強化委員会で検討しまとめる。
- 強化に関連する情報は、ヘッドコーチにも情報を共有する。

- ②エア技はインバーテッドエアを禁止、アップライトジャンプのみとする、また、1エア、2エア共にダブル技、トリプル技でもOK。

### 理由

ジュニアのうちにしっかりと踏み切りを習得させる為に、アップライトの技は必須である。踏み切りも出来ないのに、難度の高いフリップへ移行する傾向が見られる。この場合結局踏み切り動作が完成されないために、フリップを行っても高さを出す事が出来ない。結局エアポイントが頭打ちになる。こうすることで参加者の数が減る可能性もあるが、ジュニア大会については協賛いただける可能性が高く、SAJからの委託金が減額した場合でも開催出来ると思われる。

## 審議結果

- 永井氏主導で各委員会と連携してすすめる。
- 委員会とトップチームと連携してジュニアの選考基準について来シーズンの発表前までには参加年齢の変更の有効性（選考・年齢別強化を加味）をまとめておく（斗澤氏）。
- レベルに応じた強化をSAJで検討することを提案する。

## 18. 種目別 TD に関する規程について

種目別 TD についての規程が無いが、資格取得と運用、また、FIS/TD への資格アップグレードなどに関する事も規定しなくてはならないのではないかと。添付は現在の FIS/TD のウェブサイト上の資格グレード一覧。

## 審議結果

TD 資格自体に種目別の規程は無い。部内で資格者の実績を管理した上で運用する。

## 19. 加盟団体主催の講習会・勉強会の扱いについて

加盟団体主催の「フリースタイル審判員講習会及びコーチ・選手対象勉強会」を受講すれば、「SAJ フリースタイル審判員研修会」を修了したとみなす事は出来るのかを確認したい(講師派遣方法も)。

※別紙資料 [C] 参照

## 審議結果

- 受講すれば審判員研修会を修了したとみなす事は出来る。
- 講師の件は審判計算小委員会主導で選定を進めて行った方が良い
- 主催に関して、加盟団体は SAJ のフリースタイル部の審判計算小委員会へ申請するようにする。

## 20. 国内プロクター制（仮称）構築に関する提案

先般 11/1、2 の講習会を経て、今後、どのように模索していくか。委員皆様のご意見を聞きながら進めたい

## 審議結果

目的を優先させた事業計画を考えている。

## 21. 公認技術代表規程および細則についての改正について

※別紙資料 [D] 参照

## 審議結果

- 現状にそぐわない部分があるので、TD 資格取得に関して TDWG で春季に向けて改正する。
- TD 保険についても検討事項として追加する。

## 22. モーグル種目の大会参加資格について

例年課題となっている A 級の参加資格は、現在選手数の激減から実態と全く相俟っていません。健全な競技会の運営やイベントとしての適正な参加選手の確保は、大会の存続にも関わる重要な課題です。全国どこでも参加数が 100 名前後となるように適正な参加資格の改定を望みます。昨年テストケースとして実施した、ばんけいモーグル競技会のような AB 同一予選形式は運営面で大変効率的です。

## 審議結果

「8」の議題と重複する箇所もあるので、大会運営小委員会で整理して検討する。

## 23. MO 大会カテゴリーについて

現在混在している FIS レースと SAJ・A 級大会は、大会運営上非常に混乱を招いている。FIS 未登録者でも A 級大会に出場できるため、決勝進出者の正確な確定が出来ず、リザルトも 2 種類必要となる。

これは本来の競技会の有り方とは逸脱しているように感じる。他のスポーツのピラミッド型大会モデルを構築し、B から A へ、A から FIS へ、FIS からコンチネンタルへ、のように選手を段階的に底上げしていくことが、日本のフリースタイル界には必要。またモーグル種目では混在選手の決勝は出来るが、DM 種目ではそれが出来ない。これを機に、乱立している国内の競技会カテゴリーを見直し、三段階プラス全日本スキー選手権というピラミッド型の大会カテゴリーに改革していくことを提案する。

競技会の数、競技会の開催地域の設定は選手分布数との関係を個々に見極める必要がある。現在の競技会の数は供給過剰な状態にあるといえる。

#### 審議結果

「8」の議題と重複する箇所もあるので、大会運営小委員会で整理して検討する。

#### 24. SAJ ポイント計算の見直しについて

モーグル種目の計算方法が変更になったこともあり、各種目の優勝獲得ポイントも見直す必要がある。係数案

大会	係数	カテゴリー
全日本スキー選手権	100	FIS NC
全日本ジュニア選手権	90	A? ⇒B
準メジャー大会（例：宮様、北海道、東京、長野大会）	80	FIS
その他のA級	70	A
B級	50	B

※FISのように出場選手の種目ポイントによる参加係数計算することも検討する。

#### 審議結果

- 「8」の④同様、同じ大会カテゴリーの中で差別化を図る事について、各委員の意見を聞いた上で実施の方向を判断する。
- 進める場合、審判計算小委員会で検討する事を提案する。

#### 25. 会議やルールに関する全国会議について

例年一部の技術委員のみの会議でとどまっている、現在の有り方を見直し、年に一度でも強化委員や運営委員その他の組織を含む全体会議を設けることが、フリースタイルの発展に繋がるものと考えている。予算の都合上もあり難しい面もあると思うが、是非ご検討いただきたい。

#### 審議結果

今後、どのように模索していくか。委員皆様のご意見を聞きながら進めたい。

#### 26. 予算削減に伴う強化策について

全日本として今後の日本のフリースタイル界の育成強化をどのように考えているか指針をお聞きしたい。（種目別）

#### 回答

SAJ 強化費が無い状況である。しかし追加補正により先日ジュニア合宿を実施した。JSC/JOC などの助成を受けてできる事をすすめたい。

#### TD 資格停止者の扱いについて

#### 審議結果

資格喪失状態のTDはどこかの大会でアシスタントをすれば取得できることを可能とする。

## 7. 部長より報告事項

ブロックで推薦頂いた強化委員が M0 コーチとして活動していた経緯があるようだが、今後は M0 コーチではなく強化委員である。M0 情報に限らず地域に戻って発信して欲しい、地域から吸い上げて情報を共有するという観点から SAJ としては強化委員であることを理解頂きたい。強化委員長やヘッドコーチにご協力いただきたい。

平昌の目標を掲げたがメダル 3 個の内訳は M0 で少なくとも 2 つ、HP で 1 つであり、5 種目の中で 3 個という意味である。5 種目でフリースタイルとして進めていきたい。

## 8. 最後に議長より

フリースタイルの問題・課題・現状が明白になり、スノーボード部の経験も長い尾形氏の指摘もあり、違った視野からフリースタイル部の問題山積の状況が晒された。

これからがスタートでありこれからが大変なので 12 月までの業務、3 月までの業務が鍵となるので、それぞれの立場で責任を持って仕事を進めて頂きたい。

以上、平成 26 年 11 月 9 日開催の全日本スキー連盟フリースタイル部技術運営委員会の議事内容に相違ないことを証明し、以下の連名で承認する。

議事録署名人：フリースタイル部部长	高野 弥寸志
議事録署名人：フリースタイル部ヘッドコーチ	斗澤 由香子
議長	: フリースタイル部技術運営委員会委員長 荒瀬 裕基
書記担当	: フリースタイル部セクレタリー 長島 康敬